



# 松明

(令和2年11月発行・隔月発行) 2020 vol.6



P1 わかくさ病棟成人式より

## わかくさ病棟成人式

療育指導室 保育士 大山 祥子

重症心身障害児(者)病棟にて10月28日に成人式が執り行われ、3名の患者様が成人を迎えることとなりました。今年は新型コロナウイルスの影響もあり、例年のような療育棟での実施ではありませんでしたが、3名共に体調を崩すことなく元気に病棟内での式に参加することができました。

当日は普段と違う装いに緊張が見え隠れし、ぎこちない表情が見られる方もいましたが、病棟の慣れ親しんだ環境の中での実施ということもあり、すぐに緊張もほぐれ笑顔で参加されておりました。

和やかな雰囲気の中で式は始まり、杉浦院長より「成人おめでとうございます」と祝辞が述べられ、成人証書が授与されました。家族と共に証書に手を伸ばす姿は、

新たな一步を力強く踏み出すようでとても凛々しく感じられました。その後、前田主任栄養士から大人の仲間入りとして「こどもビール」が贈呈されました。証書や記念品を受けると、嬉しそうに眺め、大切そうにしている姿もまた印象的でした。

今回、思い出のアルバムは病棟内での上映は行わずDVDを作成し、ご家族の方にプレゼントさせて頂きました。20年間に渡るたくさんの思い出を振り返りながら、懐かしんでいただければと思っております。

証書にも書かれていますが、3名の方々の「輝かしい未来」のお祝いをできたことを、病院職員一同光栄に思っております。御成人、おめでとうございます。



### 本号のご案内

- わかくさ病棟成人式 ..... 1
- 看護部だより 院内研修の紹介 ..... 2
- オンライン面会について ..... 2
- 第74回国立病院総合医学学会に参加して ..... 3
- 療育だより おへやが星空に～プラネタリウム鑑賞～ ..... 3
- 看護学校だより 10月11日 防災訓練の感想 ..... 4
- ボランティア活動を通して ..... 4
- 健康プラザ 感染予防と手荒れについて ..... 5
- 地域医療連携室だより 登録医のご紹介 ..... 5
- 外来担当医表 ..... 6

## 納得の医療で地域や社会に貢献

### 病院理念

福島病院では「納得の医療」で地域や社会に貢献を理念として掲げ、職員一同、●人間として対等な患者さんの目線に立ち、●分かり易い説明を行い、同意を得た上で、●安全・安心で質の高い、患者さんやご家族を始め、地域社会の方々、勿論病院職員など誰にでも納得していただける医療の提供を常に心掛けております。

今回は 10 月に行った輸血研修の紹介をします。

輸血療法は赤血球や血小板、凝固因子成分の機能の低下や量が減少した時にそれらを補充する治療です。正しく行うことで命を救うことにつながる反面、誤った知識や手技により、正しい効果を得られなかったり、副作用につながる可能性もあります。研修では、検査科の協力を得て、講義と模擬血液を用いた演習を行い、知識と技術を学ぶことができました。また、真剣に研修に取り組む研修生の姿勢から半年間の成長を感じることができま

した。

新人看護師は先輩のサポートを受けながら、一人で行動計画を組み立てたり、必要なことを判断したりするなど、少しずつ独り立ちに向けて歩みを進めています。自身の知識や技術不足を感じる反面、できることや任されることが増え、少しずつステップアップし、患者さんとの関わりの中で看護の楽しさや責任の重さを感じています。今後も患者様へ安全・安心の看護が実践できるように、新人看護師をサポートしていきたいと思いを



## オンライン面会について

医事企画連携室 経営企画室長 畠山 卓士

新型コロナウイルス感染症は、私たちのコミュニケーション手段にも大きく影響が出てきており、多くの病院では原則面会禁止の対応をせざるを得ない状況となっています。

当院も例外ではなく、面会を原則禁止としています。ご家族様にとって、面会は療養中の患者様の様子を知ることができる数少ない機会でもあります。面会が制限されることは、患者様とご家族様にとって不安や心配事が募ることに繋がっています。そのような状況の中、患者様やご家族様の気持ちを少しでも和らげたいという思いで、7月から院内のパソコンからオンライン面会を開始しましたが、ご家族様に当院までご訪問いただかなければならないことや患者様に別室に移動していただく必要がございました。また、別室に移動できない患者様は、面会ができないことでもありご不便をおかけしておりました。

今般、患者様のベッドサイドとご家族様のご自宅の間でも SNS の LINE アプリを活用したビデオ通話ができ

るよう環境を整えました。

ご利用いただいた、ご家族様からは「元気な顔が画面越しに見ることができて良かった」など、電話では確認できない患者様の病院での様子を見て安心されたお言葉をいただきました。

このビデオ通話を通じて少しでも患者様とご家族様の不安や心配事が軽減されればと思っております。



# 第74回国立病院総合医学会に参加して

栄養管理室 主任栄養士 前田 啓 希

第74回国立病院総合医学会に「病院食の温度変化と  
感じ方の調査」というテーマで参加させていただきました。

私自身、これまで国立病院総合医学会には何度か参加  
していますが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響  
により、初のWeb開催ということで様々な戸惑いがあり  
ました。例えば、

- ・発表データの提出期限短縮
- ・発表（口頭説明）が出来ない等

現在世の中ではオンライン化（リモートワークやリ  
モート会議など）が一般的になりつつあります。前向き  
にとらえると、初のWeb開催に参加できたことはとて  
も良い経験になったと思います。

今回の発表内容は、当院で提供している病院食の温度  
と、それを食べた時の感じ方について調査したものに  
なります。この調査を通じて、食の安全性とおいしさにつ  
いて改めて考えるきっかけとなりました。今後も、当院  
の食事サービスの質を向上できるように努力したいと思います。



療育だより

## おへやが星空に ～プラネタリウム鑑賞～

療育指導室 保育士 村山 真優子

秋の声が聞こえる美しい季節が到来しました。今年は  
新型コロナウイルス感染症流行のため、ほとんどの行事  
が中止となってしまいましたが、昨年、プラネタリウム  
上映会を行っていただいた星つむぎ村の方より投影する  
器材をお借りし、プラネタリウム鑑賞を行う事ができま  
した。

中止となった行事が多い中、プラネタリウムの上映に  
参加することをどの患者さまも喜び、いまかいまかと上  
映を楽しみにしていました。

プラネタリウムがはじまると星空を見て大きく目を見  
開いたり、火星が迫ってくる様子に目を見張り、驚いて

いる様子が見られました。患者さんの中には指をさしな  
がら自分の星座を探すなどして、それぞれ星空を鑑賞し  
ていました。看護師さんからも星空の様子に歓声も聞か  
れました。

普段星空を見る機会がない患者さまもプラネタリウム  
を鑑賞することで、今時期の夜空の星の雰囲気を感じる  
事ができたのではないかと思います。

普段とは違う日中活動に患者さん・看護師さんたちが  
参加し、みなさん楽しんでいただけて良かったと思いま  
す。



10月11日（金）に秋の防災訓練が行われました。今回は初期消火の流れと煙体験をしました。初期消火では、出火している場所が曖昧であったため消火行動に移るまで時間がかかり、また、どのくらい離れた場所から消火を行えばいいのかなど戸惑ってしまった部分がありました。放送をよく聞くことや、大きな声で周囲に呼びかけ、どこから出火しているか状況を把握していくことが重要だと学びました。煙体験では、下の階に行くごとに煙が濃くなり、周りが見えにくく非難する場所が分からない状況でした。体制を低くしていかに煙を吸わないよう行動することや、避難場所を煙の中でも分かりやすいように大きな声で周囲に伝えることが大切だと学びました。

今回の防災訓練では、自分の身の安全を守りながら素早く避難できました。しかし、看護師として働く際には、

患者さんの身の安全を考えながら避難する必要があり、訓練時よりも時間がかかってしまう可能性があるため、防災訓練で行った基本的な避難動作をしっかりと確認していくことが大切だと感じました。日ごろから避難経路の確認や消火器の場所を確認するなど、今回の防災訓練で学んだことを今後活かしていきたいです。



今回、学校行事のボランティア活動として支援学校への展示物作成を行いました。

本来は支援学校のボランティア要員として学校祭に参加させていただく予定でありましたが、コロナ禍で困難となり、私たちなりに支援学校の皆さんに喜んでもらえるよう学生間でアイデアを出し合い作成しました。

発達段階別に4つのチームに分かれてその発達に見合った内容を考えました。

出かける範囲が制限される中で、リフレッシュしてもらいたいという思いや、現状を踏まえ、自分の身を守るための手洗いや三密を避ける行動について、相手の目線・立場に立ち考えました。改めて、それぞれの世代を考慮して作成することが、相手の立場で考えるということであり、それが看護においても対象理解や個別性へとつながる重要な視点であると実感しました。また、小児看護学で学んだことを復習する機会にもなりました。

最終学年の今、病棟での実習が少ない中で今回のボランティア活動を通して、学ぶことは多かったです。一方的な関わりにならないように、相手に喜んでもらえるという思いを持ち、双方の共感により成り立つボランティ

ア活動の意義や、学生一人ひとりが今自分にできることを考えられた機会となりました。



新型コロナウイルスが猛威を振るう中、まもなく1年が終わろうとしています。

感染予防には、マスク着用、ソーシャルディスタンス、手指消毒が重要になります。

手指消毒といえば、アルコール製剤と手洗いになると思いますが、アルコールは酸性が強く肌に合わなかったり、ハンドソープの中には抗菌成分が含まれており、必要な皮脂などが失われ、それが手荒れの原因といわれています。

手荒れが生じると、どのような問題が起きるのでしょうか。もちろん手は痛くなります。痛みがあれば、手にしみるアルコール消毒もきちんとできませんし、丁寧に手洗いをすることもできません。お湯で洗えばいいと思う方もいらっしゃると思いますが、お湯で手洗いをしても、必要

な皮脂が失われてしまい、乾燥して手荒れが悪くなる可能性もあります。

手荒れの部分には細菌が多く存在しており、手洗いをしても、すぐ細菌に汚染されるようになります。

予防対策として、ハンドクリーム、ローションなどで保湿ケアをおこなう、皮膚にあった手指消毒薬を使用する、温水ではなく、水で石鹼の成分を十分に洗い流すなどがあります。また、食器用洗剤や洗濯洗剤は脂肪分解に優れているため、皮脂を失いやすいので、ご家庭で食器洗いなどの家事をおこなう際は、防水の手袋を使用する方法もあります。



## 地域医療連携室だより

## 登録医のご紹介

## 須賀川南クリニック

院長先生は、患者さんの立場に立った的確な診療と、効果的な治療を実現することにつとめ、近代医学で治りにくい病状に対しては「漢方内科」を併設し治療に取り組んでおられます。患者さんからの病気についての疑問、悩み事の相談も丁寧に対応し、安心と信頼の地域密着のホームドクターとして、快適で親切なクリニックを目指し診療にあたっておられます。

院内は待合室・診察室とも清潔感があり、バリアフリーで患者さんへの配慮がなされています。

診療を受けた方々からは、「親身になって相談に乗ってくれます」「丁寧に治療していただきました」という声も聞かれ、先生の目指している診療であることが感じられます。



●院長：  
圓谷幸雄（つぶらや ゆきお）先生

●専門医：  
外科専門医（日本外科学会）  
漢方専門医（日本東洋医学会）

●診療科目：内科・外科・小児科・皮膚科・漢方内科

### 診察時間

外来受付時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～11:30	●	●	●	休診日	●	●	休診日	休診日
14:00～18:30	●	●	●		●	15:30 まで		

休診日：木曜日、日、祝

診療時間：9:00～11:30、14:00～18:30

※土曜日午後は15:30まで

診療時間・内容等について、事前に必ず医療機関に直接ご確認ください

●住所：〒962-0826 福島県須賀川市広表77-1



**0248-94-8135**

●外来担当医表●

外来担当医は都合により変更となる場合がありますので、ご了承ください。

【令和2年11月1日より】

区	分	月	火	水	木	金
内科	1	安田千尋	安田千尋			安田千尋
内科	2	佐藤由紀夫 (第1・3)				
内視鏡検査					安田千尋	
脳神経内科		伊藤英一	根本和夫	伊藤英一	根本和夫	杉浦嘉泰
小児科		福島医大	石井希代子	福島医大		河原田勉
専門外来 (発達小児クリニック)			石井勉			河原田勉
専門外来 (小児神経外来)		石井希代子 (第1・3) 平山恒憲 (第2) 再来のみ		石井希代子 (第2・4・5)	加藤朝子 (第2・4)	
専門外来 (小児循環器外来)				桃井伸緒 (第2・4)		
小児専門外来		予防接種 (午後)				
整形外科		古川浩三郎		古川浩三郎		古川浩三郎
小児外科					清水裕史	
脳神経外科			福島医大 (第2・4)			

●完全予約制となります。予めご予約をお願いいたします。

●受付時間は**午前8:30～11:00**までです。急患については随時受付いたします。外来担当医は、都合により変更となる場合がありますので、ご了承下さい。

●外来担当医表は令和2年11月1日時点のものです。その後担当医が変更になっている場合もありますので、当院ホームページ、院内掲示等をご確認ください。

●専用ダイヤルをご利用ください●

診療のお問い合わせ・ご相談 (月～金 9:00～17:00)

診療の予約・変更等 (月～金 15:00～17:00)

**専用ダイヤル 0248-75-2259**

●編集後記●

霜がおり、朝晩めっきり寒くなりました。今年の冬はコロナとインフルエンザに気をつけなければなりません。体を温めないと免疫力が落ちてしまうので、温かい食物をとり、温かいお風呂に入って、暖かくしてしっかり睡眠をとって、冬を乗り切りましょう。明けない夜はない。季節は巡る。コロナもきっといつかは収束する。それまで、負けないように頑張りましょう。  
(編集委員M)



National Hospital Organization Fukushima National Hospital

独立行政法人国立病院機構 **福島病院**

〒962-8507 福島県須賀川市芦田塚13番地

☎0248-75-2131 (代表)

<https://fukushima.hosp.go.jp/>